

JR 美祢線利用促進協議会

第 4 回復旧後の利用促進検討ワーキンググループ議事概要

1 日 程

令和 6 年 2 月 20 日（火）

2 会 場

県庁 4 階共用第 2 会議室

3 議 題

(1) 復旧後を見据えた利用促進策の検討（取組効果の試算を含む）

前回のワーキンググループで検討した利用促進策について、JR 西日本から取組効果（輸送密度）を試算した資料の提示があった。

その資料を基に、民間団体や地域団体のアンケートの内容も踏まえ、利用促進策を検討した。

ア 国から発表された将来人口推計によると、2050 年までに美祢線沿線の人口は半数以下になる見込みであり、利用者数も減少することは避けられないことを踏まえ、中長期的な施策の効果については、一定の前提をおいて試算を行った。⇒JR 西日本

イ 復旧後に各種利用促進を展開することにより、輸送密度をどの程度積み上げるかといった観点で進めたい。⇒事務局

ウ JR 西日本の査定は、輸送密度への貢献度は通学などの定期的な利用で大きくなり、観光などの不定期利用は輸送密度に反映されづらいと評価されている。このこと自体は一般性があると思われる。今後の検討としては、このような構造があることを念頭に置いて、頻度の高い利用をより増加させるための方法を考えるのか、この試算を前提に公共交通を持続させるための方法を考えるのか、議論する必要がある。⇒学識経験者

エ 美祢市では立地適正化計画を策定し、駅周辺に人口を集中・集約させる策が打たれ、想定される人口減少が緩やかになる可能性はある。輸送密度を前提にすると、“まちづくり”で駅周辺に人口を集客できれば輸送密度の増加は期待できる。インバウンドも平日の利用客が増加する可能性はある。⇒学識経験者

オ 利用者数が重複している項目は、精査が必要である。インバウンドの個人客の増加分の積み上げや JR 西日本の試算における“まちづくり”施策に伴う選定の見直しを検討したい。⇒事務局

今回のワーキンググループは、取組効果の試算について議論した。次回は、総会に報告する最終とりまとめの方向性について議論することを確認し、第 4 回復旧後の利用促進検討ワーキンググループは終了した。